

ASBJ Newsletter



目次

1. 企業会計基準等の開発（2010年2月2日～2010年4月2日）
2. 企業会計基準委員会の概要（第195回～第198回）
3. IASB 及び FASB に対する ASBJ のコメント（2010年2月1日～2010年3月31日）
4. 加藤 ASBJ 常勤委員が IFRS 対応会議のインド・シンガポールミッションに参加
5. 第9回基準諮問会議を開催
6. IASB 第27回基準諮問会議（SAC）を開催
7. EFRAG 議長・副議長が来日
8. 萩原 FASF 理事長 日本内部統制大賞—Integrity Award—2010 経営者会計大賞を受賞
9. ASBJ 新体制発足
10. FASF セミナー「有価証券報告書の作成要領(平成22年3月期提出用)」を開催
11. プロジェクト進捗（2010年4月12日現在）
12. お知らせ

《ご注意》本文中のハイパーリンク先につきましては、一部、財務会計基準機構の会員限定サイトとなっており、一般の皆様にはご覧頂けないこともございます。あらかじめご了承ください。

1. 企業会計基準等の開発（2010年2月2日～2010年4月2日）

1) 【Final】[企業会計基準第24号「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」等の公表に伴う他の会計基準等の改正](#)（2010年2月19日）

（企業会計基準第24号等の公表に伴い実務対応報告第18号「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」及び実務対応報告第19号「繰延資産の会計処理に関する当面の取扱い」に技術的な改正を行ったものです。）

2) 【ED】[「中小企業の会計に関する指針」の改正に関する公開草案](#)（2010年3月11日）

（コメント募集は2010年3月31日で終了しています。）

3) 【その他】[実務対応報告第26号「債券の保有目的区分の変更に関する当面の取扱い」の適用期間の満了](#)（2010年3月17日）

4) 【ED】[企業会計基準公開草案第39号「退職給付に関する会計基準（案）」及び企業会計基準適用指針公開草案第35号「退職給付に関する会計基準の適用指針（案）」](#)（2010年3月18日）

（コメント募集は2010年5月31日までとなっています。）

5) 【ED】[企業会計基準公開草案第40号（企業会計基準第2号の改正案）「1株当たり当期純利益に関する会計基準（案）」](#)、[企業会計基準適用指針公開草案第36号（企業会計基準適用指針第4号の改正案）「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針（案）」](#)及び[実務対応報告公開草](#)

[案第32号（実務対応報告第9号の改正案）「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い（案）」](#)（2010年4月2日）

（コメント募集は2010年5月31日までとなっています。）

6) 【ED】[企業会計基準第24号「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」等の公表に伴う他の会計基準等の改正案](#)

（企業会計基準第24号等の公表に伴い四半期財務諸表に関する会計基準等及びセグメント情報の開示に関する会計基準等の修正に関する公開草案となります。コメント募集は2010年5月31日までとなっています。）

【凡例】

DP： 論点整理・検討状況の整理

ED： 公開草案

Final： 会計基準/適用指針等（最終）

2. 企業会計基準委員会の概要（第195回～第198回）

1) [第195回（2010年2月12日開催）](#)

a. 実務対応報告第18号「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」及び同第19号「繰延資産の会計処理に関する当面の取扱い」の改正【公表議決】

b. 退職給付専門委員会における検討状況

c. 財務諸表表示専門委員会における検討状況

d. 企業結合専門委員会における検討状況

e. 特別目的会社専門委員会における検討状況

a. 企業会計基準第24号「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」が公表されたことに伴う実務対応報告の所要の改正が議決されました。

b. 公開草案の文案検討が行われました。退職給付債務を負債として計上する際の科目や、リサイクリング、退職給付見込額の期間帰属に係る規定の検討が行われています。

退職給付に係る負債については、未認識の数理計算上の差異等も即時認識することから「退職給付引当金」ではなく、「退職給付に係る負債」等の適当な科目をもって、固定負債として表示することとされています。また、損益計算書上は、従来の処理方法を継続するためのリサイクリングの規定が明示されています。

c. [包括利益の表示に関する公開草案](#)に寄せられたコメントの紹介とその対応が報告されました。

包括利益の表示の導入については、賛成するコメントが多かったものの、個別財務諸表に対しても適用するかについては、実務負担への考慮、個別財務諸表への導入に関する市場関係者のコンセンサスの必要性等を理由とした反対または連結を先行させるべきとのコメントが多く寄せられました。

d. 全部のれん方式と購入のれん方式との選択適用を認めるか、全部のれん方式を適用する場合の非支配持分の測定方法をどう考えるかの検討が行われました。

e. 企業会計審議会「連結財務諸表制度における子会社及び関連会社の範囲の見直しに係る具体的な取扱い」の特別目的会社の取扱いについての対応が検討されました。

2) [第 196 回 \(2010 年 2 月 25 日開催\)](#)

- | |
|-------------------------|
| a. 退職給付専門委員会における検討状況 |
| b. 財務諸表表示専門委員会における検討状況 |
| c. 過年度遡及修正専門委員会における検討状況 |
| d. 引当金専門委員会における検討状況 |

e. リース会計専門委員会における検討状況

- a. 第 197 回委員会での公開草案議決を前に、文案検討が行われました。
- b. 包括利益の表示の個別財務諸表への導入と適用時期についての検討が行われました。個別財務諸表への導入を提案した公開草案への否定的な意見や連結先行を求める意見が多いことを踏まえ、連結先行について関係者のコンセンサスが得られるよう十分議論すべきとの意見と、連結先行については、会社法や税法との調整等の問題が存在する場合に検討を要するものであり、包括利益の表示はこれに当たらないという意見に分かれています。
- c. 第 2 四半期以降に会計方針の変更を行う場合で、当期におけるそれ以前に終了した四半期会計期間に新たな会計方針を遡及適用することができない場合の検討が行われました。
- d. 国際会計基準審議会 (IASB) が 1 月に公表した [IAS 第 37 号改訂の再公開草案](#) に対するコメントの検討が行われました。

3) [第 197 回 \(2010 年 3 月 11 日開催\)](#)

- | |
|--------------------------------|
| a. 公開草案「退職給付に関する会計基準(案)」【公表議決】 |
| b. 実務対応報告第 26 号の取扱い【公表議決】 |
| c. 財務諸表表示専門委員会における検討状況 |
| d. 無形資産専門委員会における検討状況 |
| e. 1 株当たり利益専門委員会における検討状況 |

a. 退職給付に関する会計基準の公開草案の公表議決が行われました。

公開草案による従来からの主な変更点は、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法 (いわゆる貸借対照表上

における即時認識。損益計算書上の処理方法は従来と同じ。)、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の見直し(給付算定式に従う方法の選択の容認、イールド・カーブを用いた割引への変更など)、開示の拡充等があります。

- b. [実務対応報告第 26 号](#)の取扱いについての検討が行われました。

同実務対応報告は、金融危機に対応するものであったため設定に際して適用期限を設けられています。しかし、今日、経済環境が変化したことから、当時のような「稀な場合」は認められないこと、保有目的区分の変更を行った場合の注記も継続する意義が乏しいと考えられることから、実務対応報告を継続せず、継続注記も求めないこととされました。

- c. 第 196 回委員会に引き続き、包括利益表示の個別財務諸表への適用に関する検討が行われました。

プロジェクト計画表では、3 月までに最終基準を確定させることとなっていました。プロジェクト計画表では、3 月までに最終基準を確定させることとなっていました。委員会での意見が割れていることから、予定通り次回委員会で最終議決を行うか、あるいは継続審議すべきか意思確認を行いました。その結果、継続審議を支持する意見が多かったことからその前提に立ち、今後の対応が検討されることとなりました。

- d. [論点整理](#)に寄せられたコメントの紹介が行われました。

社内研究開発費の資産計上については、コンバージェンスの観点から賛成するコメントが多いものの、比較可能性が担保されるためのガイドラインを望む意見も多く寄せられています。

- e. 次回委員会での公開草案議決を前に文案の検討が行われました。

4) [第 198 回 \(2010 年 3 月 25 日開催\)](#)

- | |
|--|
| a. 公開草案「1 株当たり当期純利益に関する会計基準 (案)」【公表議決】 |
| b. 「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」等の公表に伴う他の会計基準等の改正案【公表議決】 |
| c. 特別目的会社専門委員会における検討状況 |
| d. 財務諸表表示専門委員会における検討状況 |
| e. 無形資産に係る検討 |
| f. 平成 22 年度税制改正に伴う検討 |

- a. 1 株当たり当期純利益に関する会計基準等の改正公開草案の公表議決が行われました。

今後の IASB の検討でも影響を受けないと考えられる IFRS との既存の差異及び我が国の市場関係者から実務上の対応要請のある点(転換価格修正条項付転換社債の取扱い等)に係る改正を内容としています。

- b. 会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の公表に伴う四半期会計基準及びセグメント情報開示基準の所要の改正に係る公開草案の公表議決が行われました。

- c. 「連結財務諸表制度における子会社及び関連会社の範囲の見直しに係る具体的な取扱い」の「三 特別目的会社の取扱い」に関する検討が行われました。

実務上、開発型の特別目的会社について拡大解釈がなされているという問題が指摘されています。特別目的会社の検討は、コンバージェンス項目ですが、開発型特別目的会社への対応について、コンバージェンスの検討とは別に、短期的な対応をすべきか意思確認が行われました。その結果、短期的対応を図ることとされ、今後、委員会で検討されることとなりました。

- d. 第 197 回委員会に実施された意思確認では、個別財務諸表での包括利益の表示取扱いには継続して検討すべきとの意見が多かつ

たことから、今後、2～3ヶ月間検討を継続することが確認されました。

- e. 社内開発費の資産計上に係る検討が行われました。資産計上については、税法上の問題があることから、連結先行の検討をすべきとの指摘があります。
- f. 平成 22 年度税制改正のうち、グループ法人税制関連に対応するための検討が行われました。

3. IASB 及び FASB に対する ASBJ のコメント (2010 年 2 月 1 日～2010 年 3 月 31 日)

- 1) [公開草案「経営者による説明」に対するコメント](#)を提出 (2010 年 3 月 2 日)
(公開草案の原文は[こちら](#))

4. 加藤 ASBJ 常勤委員が IFRS 対応会議のインド・シンガポールミッションに参加

インド及びシンガポールにおける IFRS 導入に向けての実情調査、意見交換及び日本との関係構築を目的として、IFRS 対応会議が主導し、日本経済団体連合会、日本公認会計士協会及び ASBJ により構成されたミッションが、2010 年 2 月 8 日～11 日、両国の会計関係者を訪問しました。このミ



ッションに ASBJ から加藤常勤委員が参加しました。詳細は[こちら](#)を参照してください。

5. 第 9 回基準諮問会議を開催

2010 年 2 月 17 日、[第 9 回基準諮問会議](#)が開催されました。会議では、ASBJ の最近の活動状況についての報告の後、英国 ASB との会議、米国及び欧州の動向について意見交換が行われました。その後、2010 年に予定されている主な国際イベント及び IFRS 対応会議に設置されている[国際対応委員会](#)についての説明が行われ、米国の金融規制案の影響、IASB の米国財務会計基準審議会 (FASB) とのコンバージェンスに対するスタンス等について意見交換が行われました。

続いて、[非上場会社の会計基準に関する懇談会](#)の設置についての説明が行われ、上場会社向け会計基準との関係、中小企業向け IFRS 等についての意見交換が行われました。

最後に昨年 11 月に行った平成 21 年度アンケート調査の取りまとめ結果の報告が行われ、コンバージェンスの継続・加速化への取り組みについて意見交換が行われました。

6. IASB 第 27 回基準諮問会議 (SAC) を開催

IASB の[第 27 回基準諮問会議 \(SAC、現 IFRS Advisory Council\)](#) が、2010 年 2 月 22 日と 23 日の両日にわたり、ロンドンで開催されました。日本からは、SAC メンバーである金子誠一 社団法人日本証券アナリスト協会理事、米家正三 伊藤忠商事株式会社常勤監査役、オブザーバーとして金融

庁より園田周課長補佐が出席しました。スケジュール及び議題は以下のとおりです。

日時	議題
2月22日 10:00 ～13:00	<p>前回 SAC 会議以降のアップデート</p> <ul style="list-style-type: none"> • SAC 議長及び副議長 • IASB 作業計画の進捗状況 • NSS アップデート • EFRAG アップデート • SEC アップデート • SAC メンバーの活動
14:00 ～15:30	<ul style="list-style-type: none"> • XBRL 及び開示規定との相互関連 (タクソノミーの原理とエクステンションの役割についての紹介)
15:30 ～17:30	<ul style="list-style-type: none"> • 2011 年 6 月以降の IASB 作業計画における優先順位 (4 つのグループに分かれてのディスカッション)
2月23日 9:15 ～11:15	<ul style="list-style-type: none"> • 2011 年 6 月以降の IASB 作業計画における優先順位 (続き) (各グループからの報告)
11:30 ～12:30	<ul style="list-style-type: none"> • 影響分析 (effect analysis)

前回の SAC 会議から引き続き、今回の会議においても、2011 年 6 月以降の IASB 作業計画における優先順位が主要なテーマでした。4 つの小グループに分かれてディスカッションを行い、その結果が全体会議で報告されました。各グループに共通した見解は次のとおりです。

- ① 新たな基準開発を控え、存在する基準の確実な施行に集中すべきである。そのため、プロジェクトをアジェンダに追加するための規準を見直すべきである。

る。

- ② 施行後のレビューは重要であり、新たなガイドラインの開発が必要かもしれない。
- ③ コンバージェンスはそれ自体が主要な目標ではない。また、コンバージェンスのために品質を犠牲にすべきではない。
- ④ IASB のブランドを維持するためには、基準の意思決定有用性を維持しなければならない。基準の信頼性を維持し、その誤用に対処しなければならない。

この他、今後の議論に資するため、XBRL 及び影響分析 (effect analysis) に関するプレゼンテーションが行われました。多くの SAC メンバーから、基準開発のプロセスに影響分析を組み込むことを支持するコメントが聞かれました。

7. EFRAG 議長・副議長が来日

2010 年 3 月、[欧州財務報告諮問グループ \(EFRAG\)](#) の Stig Enevoldsen 議長、Françoise Flores 副議長 (次期議長、4 月 1 日就任予定) と Mario Abela ディレクターが来日し、ASBJ との意見交換を行いました。

3 月 8 日に ASBJ で行われた会議では、まず ASBJ から最近の活動と昨年発足したアジア・オセアニア基準設定主体グループ (AOSSG) の活動について、また、EFRAG からは、活動状況や欧州でのエンドースメント・プロセスに関する状況が紹介されました。その後、IASB のプロジェクト動向を中心とした国際的な会計基準を巡る動向や欧州での経験を踏まえた IFRS の適用に関する問題に加え、金融商品 (認識及び測定)、財務諸表の表示、負債 (IAS 第 37 号修正)、中小企業向け IFRS などの IASB のプロジ

エクトに関して意見交換などを行いました。

翌 9 日には、EFRAG 議長・副議長をゲスト・スピーカーに迎えた ASBJ オープン・セミナー:IFRS に如何に向き合うか「欧州の経験を踏まえた日本のこれからの IFRS 導入に関する取組み」を東京コンファレンスセンター・品川にて開催しました。当日は雨天にもかかわらず 500 名を超える多くの聴講者が来場されました。

本セミナーは、日本における IFRS 導入を円滑に進めていくためにヨーロッパでの経験を学ぶとともに、日本での導入時に直面するであろう課題及び必要となり得る対応について検討し、認識を深めることを目的としています。セミナープログラムは以下のとおりです。

講演タイトル	講演者
IFRS への欧州の対応 ～EFRAG の活動を通じて見えてくるもの～	Enevoldsen EFRAG 議長 Flores EFRAG 副議長
IFRS を巡る日本の動向 ～ASBJ の活動～	西川 ASBJ 委員長
IFRS の導入に向かって ～IFRS 対応会議の活動等～	島崎 IFRS 対応会議国際対応委員会委員長
パネル・ディスカッション	パネリスト
“欧州の経験を踏まえた日本のこれからの IFRS 導入に関する取組み”	Enevoldsen EFRAG 議長 Flores EFRAG 副議長 島崎 IFRS 対応会議国際対応委員会委員長 金子 日本証券アナリスト協会 理事 教育第 2 企画部長 西川 ASBJ 委員長 加藤 ASBJ 常勤委員 (モデレーター)

Enevoldsen 議長と Flores 副議長の講演での主な発言は以下の通りです。

- EFRAG は、IASB/FASB のコンバージェンスは支持するが、どんな犠牲を払って

もとは思っていない。IASB はアメリカのニーズだけに焦点を当てるべきではなく、日本のように IFRS を導入すると決めた国、欧州等の意見も聞くべきである。

- 欧州の IFRS 適用について、欧州委員会の 2006 年財務諸表調査によれば、全体的な品質が 2005 年から大幅に向上しているという評価が出ている。質の向上は順次高まっていくものであり、初年度から一気に向上するという事はないということは大変なポイントであろう。
- 会計基準変更の準備期間には長い時間がかかる。日本基準は既に IFRS とのコンバージェンスが進んでいるので、それが無かった欧州に比べると進め易いのかかもしれないが、それでも大変な苦勞を伴うであろう。
- IFRS 第 9 号「金融商品」の欧州におけるエンドースメントについて、欧州委員会は拒絶したわけではなく、熟考する時間が必要と考えただけであり、時期が来れば判断する。



講演の後、講演者の 4 名に金子日本証券アナリスト協会理事と加藤 ASBJ 委員も加わって行われたパネル・ディスカッションでは、IFRS 第 9 号を含む欧州でのエンドースメントのメカニズム、原則主義である IFRS の導入における課題などが取り上げられ、活発な議論が展開されました。

本セミナーによって、IFRS の導入に関する

動向とともに、今後 Flores 新議長の下で、ますます欧州での会計に大きな役割を担っていく EFRAG の活動についての関係者の理解が深まったと思われます。また、ASBJ と EFRAG は、IASB における高品質な会計基準の開発に対する貢献とその導入のために、今後も引き続き意見交換を行っていくこととしています。

(FASF 会員の皆様には、本セミナーの様相を 6 月 24 日まで [ASBJ Web セミナー](#)にてご覧頂けます。)

8. 萩原 FASF 理事長 日本内部統制大賞－Integrity Award－2010 経営者会計大賞を受賞

FASF の萩原理事長が、この度、日本内部統制大賞－Integrity Award－審議会から「経営者会計大賞 2010」を授与されました。



(写真提供：フィナンシャル
ジャパン編集部)

「日本内部統制大賞－Integrity Award－」は、内部統制システムが効率的な企業経営を行うために重要であることを示していくとともに、コンプライアンス重視の誠実かつ透明性の高い経営が中長期的に見て市場で高い競争力を持つことを評価しつつ、こうした意識の高い企業を社会的に応援することを目的としています。そして、本年より会計の役割を正しく認識し、自身の業務に十分活用し、業務を通じてわが国の会計社会の発展に向けて貢献している者に「経営者会計大賞」が授与されることとなり、萩原理

事長が選出されています。

表彰式は、3月23日に東証ホールにて開催され、その中で萩原理事長は受賞の喜びを次のように述べています。

「この度は、経営者会計大賞2010を頂くこととなり、誠に光栄に存じております。この賞は、今年初めて設けられたもので我が国会計社会の発展に向けて貢献している者に贈られると伺っております。今回の私の受賞は、私がこれまで関わって参りました財務会計基準機構の活動、また、昨年立ち上げましたIFRS導入推進のためのIFRS対応会議の活動、そして、経団連等の経済団体での活動などが、多くの皆様から評価された結果と理解しております。これらの活動は私一人で為し得たものではなく、多くの皆様のご協力の賜物です。この場をお借りして、それぞれの組織の関係者の皆様に御礼申し上げます。」

なお、その他の受賞者の方々は以下のとおりです。

- ✓ 会計人奨励賞 2010
 - 鶯地隆継 氏 (住友商事(株)フィナンシャルリソーシズグループ長補佐、IFRIC 委員)
 - 田中靖浩 氏 (公認会計士)
- ✓ 日本内部統制大賞 2010－Integrity Award－
 - 最優秀賞
TOTO 株式会社
 - 優秀賞
旭硝子株式会社
三菱商事株式会社

9. ASBJ 新体制発足

2010年3月19日開催の理事会においてASBJ委員の改選が行われました。基準開発等を効率的に進めることを目的に、委員総数を従来の15名から11名に削減する一方、常勤委員を4名から5名に増員となりました。新体制は以下のとおりです。

西川	郁生	常勤(委員長)
加藤	厚	常勤
新井	武広	常勤
都	正二	常勤(新任)
野村	嘉浩	常勤
小宮山	賢	非常勤
谷本	康典	非常勤(新任)
平松	一夫	非常勤
弥永	真生	非常勤(新任)
山田	達也	非常勤
米家	正三	非常勤

10. FASF セミナー「有価証券報告書の作成要領(平成22年3月期提出用)」を開催

FASFでは、4月2日より大阪、東京(3回)、名古屋、福岡、札幌、金沢、広島、高松、仙台の全国9都市にて11回にわたって「有価証券報告書の作成要領(平成22年3月期提出用)」のセミナーを開催しました。当セミナーでは、併せて金融庁総務企画局企業開示課から「ディスクロージャー制度



をめぐり最近の動向等」について、またASBJから「ASBJの活動状況」として我が国のコンバージェンスに向けた動向及び最近公表された会計基準等についての説明が行われました。

セミナーの参加者は、延べ約4,000人と関係者の関心の高さを伺わせる、盛況なものとなっています。

11. プロジェクト進捗（2010年4月12日現在）

	2010 Q2	2010 Q3	2010 Q4	2011 H1	2011 H2
既存の差異に関連するプロジェクト項目					
企業結合（ステップ2）		ED	Final		
財務諸表の表示（包括利益）	Final				
無形資産		ED	Final		
IASB/FASBのMoUに関連するプロジェクト項目					
1 連結の範囲				ED	Final
2 財務諸表の表示 （フェーズB関連） （非継続事業）			DP ED	ED Final	
3 収益認識			DP	ED	
4 負債と資本の区分			DP		
5 金融商品 （金融資産の分類と測定）	DP2			ED	
（金融負債の分類と測定）		DP 又は DP2		ED	
（減損）				ED	
（ヘッジ会計）				ED	
6 公正価値測定・開示	ED		Final		
7 退職給付 （ステップ1）			Final		
（ステップ2）				DP	ED
8 リース		DP		ED	
9 認識の中止			DP	ED	
IASB/FASBのMoU以外のIASBでの検討に関連するプロジェクト項目					
1 株当たり利益*	Final				
引当金				DP2	ED
排出権				DP	
保険					

*：既存の差異等に関する改正

[適用]

DP	論点整理
DP2	検討状況の整理（会計基準等の方向性を示すことを目的に公開草案の前に文案に近い形で公表するもの）
ED	公開草案
Final	会計基準/適用指針（最終版）

斜体文字は終了したイベントを表しています。

12. お知らせ

1) 刊行物のご案内

機関誌「季刊 会計基準」第 28 号 (2010 年 3 月 15 日刊行)

【主な内容】

- ✓ 特集：“財務諸表の期間比較可能性や理解可能性を高める、2つの新会計基準”
 - 座談会
 - 「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準及び同適用指針」、「包括利益の表示に関する会計基準（案）」の解説
- ✓ 特別企画：Ian Mackintosh 英国 ASB 議長来日特集
 - 「Mackintosh ASB 議長と西川 ASBJ 委員長の対談」他
- ✓ Accounting Square：“IFRS 時代の幕開け 2010 年”…稲野和利 (社)日本証券アナリスト協会
- ✓ CFO Letter：“経営者としての CFO 人材の育成”…松本順一 三井物産(株)代表取締役副社長執行役員 CFO
- ✓ Chairman’s Voice：“3 年間で振り返って”…西川郁生 ASBJ 委員長

※ご購入は[こちら](#)。

2) ASBJ オープン・セミナー：IFRS の最新動向と我が国への導入（第 1 回）のご案内

ASBJ では、Sir David Tweedie IASB 議長をキーノートスピーカーに迎え、4 月 28 日（水）13 時よりよみうりホールにて「ASBJ オープン・セミナー：IFRS の最新動向と我が国への導入（第 1 回）…Sir David Tweedie IASB 議長に聞く IFRS の最前線…」を開催します。当日は、Warren McGregor IASB 理事、三井秀範 金融庁企業開示課長及び西川郁生 ASBJ 委員長

も IFRS 関連の講演を行います。

IFRS 開発の当事者から最新の情報を聞く絶好のチャンスですので、是非、御参加ください。参加申込方法等、詳細は[こちら](#)からご確認ください。

3) FASF「第 1 四半期報告書セミナー」平成 22 年 6 月期第 1 四半期報告書作成上の留意点開催のご案内

FASF では下記日程にて「平成 22 年 6 月第 1 四半期報告書作成上の留意点」を開催します。

今回のセミナーでは、2010 年 4 月 1 日より適用となる新しい「セグメント情報」の開示基準に対応した記載事例や適用初年度のポイントとなる事項の解説をはじめ、昨年 12 月に改正された開示府令等に基づき、提出会社が行使価額修正条項付新株予約権付社債券等を発行している場合の記載事例や指定国際会計基準により四半期連結財務諸表等を作成している場合のポイント、さらに、前事業年度の有価証券報告書を定時株主総会前に提出した場合の留意点について紹介する予定です。

会場	日時	場所
東京①	5 月 18 日(火) 13:30-15:30	よみうりホール
東京②	5 月 19 日(水) 13:30-15:30	よみうりホール
東京③	5 月 20 日(木) 13:30-15:30	よみうりホール
名古屋	5 月 21 日(金) 13:30-15:30	名古屋国際会議場
大阪	5 月 24 日(月) 13:30-15:30	大阪国際会議場
福岡	5 月 25 日(火) 10:30-12:30	西鉄グランドホテル

仙 台	5月25日(火) 10:30-12:30	ホテルメトロポリタン 仙台
札 幌	5月26日(水) 10:30-12:30	JRタワーホテル 日航札幌
広 島	5月27日(木) 10:30-12:30	ホテルグランヴィア 広島
金 沢	5月28日(金) 10:30-12:30	ANAクラウンプラザ ホテル金沢
高 松	5月28日(金) 10:30-12:30	全日空ホテル クレメント高松

※東京①及び東京②は、FASFの会員の方のみご参加が可能です。

※セミナー終了時間は変更になる可能性があります。

本セミナーに関する詳細及び参加のお申込み受付は[こちら](#)からご確認ください。

“ASBJ Newsletter” (第14号)

2010年4月20日発行

発行：企業会計基準委員会／

財団法人 財務会計基準機構

東京都千代田区内幸町2-2-2

富国生命ビル20階

編集・発行人：丸山顕義

制作：広報プロジェクトチーム

禁無断転載

※ご意見・ご要望は下記までお寄せください。

E-mail：publicity@asb.or.jp

Fax：03-5510-2712